

孝
行
文
算

The image features a vertical calligraphic inscription on aged, textured paper. The characters are written in a bold, expressive style. The text is '孝行文算' (Kōryū Bunkansan), which translates to 'The Way of Filial Piety, Literature, and Calculation'. The characters are arranged vertically from top to bottom. The paper shows signs of age, including water stains and foxing. Several pine branches with needles are drawn in ink, framing the central text on both sides.



孝行文章

父母を天地より我を生むゆえ

親を天と云也 親を親よ 不孝なる

天は背く同終之 此理を深く思

案し不孝に死す可忍す 能く

考へ知し 始内を出し 父母

養育よんてこころ
 若くもろろ
 冬ハ雪を凌ぎ夏ハ暑氣を
 不厭日暮心や若く只子
 安らんとすのこころ然るに生きたる
 セハハツよいたり父母親
 ほのひ兔角云語迹加たし

漸成人もろよ其子若く
 親子やおもふ心いだらば
 されば父母と思く
 出世は必之謂ん方なき
 理や母おと志実親を
 愛を各分給し
 後ハ米を

不厭ずいひ子こ是こく昔く勞ろうをし不ず歡く親しん
を安あん樂らくと悦よろこ志しつんん心こころをあんんじ

若も又また親ちちを理り僻ひくるる後のち生なり

どと子こハ必かならず是これを恨うらむるたく者もの討つつ

淫うらくく詞ことばを和やげる耐たしま權き婚けんを結む

少ちくく不ち比ひ遠たう或あるるる變へん臨りんんんハ

復くり初そ小めと我わが身みを殺ころする親ちちを無む日に大おほ安あん

穩あん存ぞんんんとと教かふふ是これれ天てん道どうとと序しり

とと右みぎよりより定さだまるる人ひとに化ま法ほう也なりととればれば人ひとをを

身みと不ふ沈ちんむむ親ちち高たか敷しととるるをを親ちち子こと

親ちちとと汝なんぢとと同どう然ぜんとと見みんんたたららははるるをを

毎まいぐぐればれば人ひとととくく多たくく親ちちもも者もの天てん

哥道ばうのり加たくるるどどーー穴あな賢けん

右た籟さい人ひとのの善よききもも也なりいい方むねをを信まじまりり能よくく孝こう行こう

有ありり度た者もの也なり

文ぶん久く之の年ねん矣や仲ちゆう春しゆん為なるる童どう蒙もう

南なん籟さい

山さん田でん得とく之の進しん重じゆう遠えん

梓し之の

忠ちゆう孝かうハハ心こころ出いるる者もの也なり一ひと切きりりとといいふふももたた乃すなはちち是こゝ也なり



手習簡要記

抑おさ手て習しゆくく肝かん要えう志し記き

為人たし道みち能よ家け業ぎやうををお立おいて

主しゆ親おや師しのの恩おんのの廣ひろ大たいなる

をを不ふ忘わするる事こと亦また一ひと之の才さい十じゆ

月つき毎ごとく胎たい内ないにてし昔むかし志こころめ

生なまれ育そだち三さん歳さい穢けがれ父母ふぼ之の

懐ふとこころ懐やう書しよの育そだち思おもい哉い乎やぞ也

道みち七八しちはち年ねん滂よみ滂う書しよホ令しむ知し物もの

之これ條すだ理り師し之の恩おんも亦また深ふか

善よ由よし父母ふぼ安あん穩おん妻さい子こ何いづ妻さい

行ゆ過りと何なんぞと心こころななままり

治おさ治さありるるる是これ 御ご承こく恩あん

物もの之の人ひと之の為ためと道みちを父ちち子こ

君きみ臣しん丈たい婦ぶ兄あに亦また友とも友とも

為父見人たろを假かりも七しち勸すす也や

為子こ成人にち只ただ志し字じを書か述じゆ

しる子こよるもも交ま子こ深か用く心こころ

生せい涯げ以もつて心しん実じつ為をるる者もの大だい小せう

昔むかし何なにるる者もの一いち重しげ遠ちやう実じつ也や

不ふ肖せう自じ好こう也やはははは子こ知ちるる者もの也や

向むか後ご也や務む一いちかか述じゆ一いち具ぐ也や為ため

子こ孫そん一いちととおお也や今いま始はじ述じゆ也や

一いち云い号ごう号ごう南なん原げん書しよ者もの也や也や

肝かん要えい記き者もの也や也や古こ今いま也や

先生谷有^{ある}其父兄^{ちちあに}在^あ是^{こゝ}
 教^{おし}中^{ちゆう}子^こ以^も呼^よび^て為^なる^は教^{おし}也^{なり}
 志^{こころ}者^{もの}於^{こゝ}弟^{あに}不^た欲^ほ人^{ひと}之^の債^{せう}云^い尔^れ
 文政十^{じゅう}下^げ亥^{がい}八^{はち}月^{げつ}識^し於^お馬^ま場^ば筑^{ちく}
 田^{でん}五^ご丸^{まる}方^{ほう}多^た尔^れ書^か卷^{まき}
 山田^{やまだ}重^{しげ}遠^{とほ}士^し道^{みち}

書^{しよ}筆^{へつ}策^{さく}劬^と記^き

南^{なん}原^{げん}策^{さく}述^{じゆつ}

書筆策勵記

書筆之修訂謹も存之

しる古於達を近き日用帳

面紙面之得自由又分書

物知又倫之道通古今



百^{ハツ}年^ニ世^ニ中^ニ道^ニ得^ル

僧^{ソウ}亦^モ齋^{サイ}家^カ立^リ灰^{ハイ}出^デ世^セ

基^キ且^ツ友^{トモ}不^ズ見^レ伐^ツ人^{ヒト}老^{ロウ}後^ゴ

近^{チカ}と^シ乐^{ラク}何^ニ物^{モノ}老^{ロウ}如^ニ志^シ在^ル

送^{ソウ}法^{ポフ}律^{リツ}其^{ソノ}最^{モト}尚^{ナウ}末^{マツ}代^{ダイ}公^{コウ}

人^{ヒト}皆^ハく^ク德^{トク}用^{ヨウ}止^シは^ハ修^{シュ}行^{コウ}也^ヤ

衣^イ食^{シキ}之^ノ外^ノ之^ノ道^{ダウ}路^ロ之^ノ志^シ

迎^{ヨウ}不^ズ論^{ロン}之^ノ撰^{セン}善^{ゼン}師^シ以^テ誌^シ

忍^{ニン}真^{シン}实^{ジツ}光^{クワウ}妙^{ミョウ}男^{ナン}女^{メウ}在^ル

從^{ヨウ}勿^ム稚^チ之^ノ时^{トキ}少^シ也^ヤ望^{ボウ}望^{ボウ}望^{ボウ}

先まづ此この修しゆ行ぎやう心こころ然しか乃すなは之の義ぎ

急おこたるとこ者こ老おい而して後こころ悔くさい急たぎ論ろん者もの之の

失それ人ひと者もの天てん地ち之の分ぶん為な前ぜん物ぶつ

之の靈れい無む善ぜん考かう道だう之の志し不ふ改かい

此こ修しゆ行ぎやう徒た子こ善ぜん目め人ひと者もの实じつ

悲かな為なり之の名な乃すなは此こ也なり今いま習しゆ之の

去こ為た親おや人ひと之の意い然しか其これ意を

祈い向む後のち去こ為た師し人ひと之の傷やう也なり

然しか者もの不ふ思し乃すなは未ま不ふ教おし之の師し

道ちう之の科か不ふ及およ之の智ち者もの親おや

誤能あやまり不習よく于子こ之の遇あやまり故ゆへ

为ため励むね童なご蒙まう教を授を徒た等ら以もつ造つ

次つぎ也なり不な可ら忽ち之を者もの也なり充もつ自と

百ひゃく文ぶん人ひと能よく办おん輕かろ也なり習しゆ

有あ之れ也なり紙かみ令い長ちやう道みち在あ不な

請こゝろ人ひと不な为ら自ら慊げん方かた我われ也なり

勅しゆ取め之を只ただ我われ也なり不な及およ今いま也なり

心こゝろ慙げん愧けい而して不な忘わす孝かう乃すなは及およ之を

道みち以もつ去こゝろ想を馳せ以もつ音ね南なん原げん書しよ屋おく

等ら乃すなは及およ之を為な行ゆ要やく志し之を穴あな貫くわん

弘化五年歲在戊申
識於南筑田主丸南原
書屋 山田重遠吉道

同書門券中梓之

主と師とそのたふちね此三乃恩
わさささといふ人とならば

新代まつさぬ社のすなはせと
主親師恩わされぬと祈す

南原

江戸樂舎用